



主の来臨を待ち望む教会

Iテサロニケ書論集

焼山満里子 著

主の来臨を待ち望む教会

Iテサロニケ書論集

焼山満里子



教文館

パウロの来臨理解の真相に迫る！

従来、キリスト来臨の「遅延」が問題とされてきたIテサロニケ書を、黙示文学を手がかりに読み直した画期的な論文集。

終末論に支えられた、苦難における希望と励まし、キリストへの参与、兄弟愛の実現など、Iテサロニケ書に現れたパウロ神学の全貌を明らかにする。

[目次]

序論

第1章 Iテサロニケ書における福音

第2章 Iテサロニケ書における十字架の神学

第3章 贖罪論と現代の教会
——パウロによる参与のキリスト論

第4章 パウロ書簡、パウロ後書簡における
静かな生活の勧めと終末待望

第5章 Iテサロニケ書とIIテサロニケ書の文書比較

第6章 I、IIテサロニケ書における来臨

第7章 Iテサロニケ書における「主の日」と
ゼファニヤ書における「主の日」

著者紹介 焼山満里子 東京神学大学(M. Th)、アメリカ、カリフォルニア州クレアモント大学院大学卒(Ph. D)。梅光女学院大学(現梅光学院大学)短期大学部宗教主任、東京神学大学教授を経て、現在、国際基督教大学アーツ・サイエンス科准教授。